

343. ヤヘヤマトラノヲ 344. ナガバノキノモトサウ 345. フサシダ
 346. カンザシワラビ 347. ウスバワラビ 348. カンシノブホラゴケ
 349. イトシシラン 350. オホカグマ

學名その他氣のついたことを列挙してみると

Pl. 302. は *Antrophyum reticulatum* KAULF. ではなくて *A. Grevillei* BALF. である。

Pl. 303. はむしろ奇形である。ホコガタシダの葉はよく先端が叉状に分岐はするが決して正常の型ではない。

Pl. 310. 正しい學名は *Athyrium anisopterum* CHRIST. そしてこれは *A. macrocarpum* Bl. と合一すべきものであらう。*Dryopteris cystopteroides* KODAMA はヒメハシゴシダのことである。

Pl. 312. これは小笠原の *Dryopteris lepigera* O. KTZE. ではなくて臺灣、琉球、四國、本州にある *D. subtripinnata* O. KTZE. モクバのやうに思はれる。

Pl. 314. リヤウメンシダの學名は *Rumohra Standishii* CHING である。*Dryopteris viridescens* O. KTZE. はナガバノイタチシダのことである。

Pl. 340. はアリサンフジシダではなくて *Polystichum stenphyllum* CHRIST = ヒタカシダである。

世界に稀にみる立派な圖譜であるから今少し責任を持つて検定していただきたい。

(田川基二)

秦仁昌氏：中國印度及び其の隣邦産ヲシダ屬の正誤研究 R. C. CHING :
 A review of the Chinese and Sikkim-Himalayan *Dryopteris* with refernce to
 some species from neighbouring regions. [Bull. Fan Memor. Inst. Biol. 6 :
 237—352 (March 11, 1936)]

ヲシダ屬 *Dryopteris* は今日一般に行はれてゐる意味ではすいぶん大きな屬で雑多な分子が澤山にはいつてゐる。秦氏はすでにこの屬からウサギシダ屬 *Gymnocarpium*, *Stegnogramma*, ミゾシダ屬 *Leptogramma*, キンマウワラビ屬 *Hypodematum*, カナワラビ屬 *Rumohra* 等を抜き出して詳説せられたが、本編はヒメシダを模式種とする一群を抜き出してこれをヒメシダ屬 *Thelypteris* にまとめ、印度以東に産する 68 種につき詳しく解説して居られる。

Thelypteris は 1762 年に SCHMIDEL が設立して以來全く忘れられ、近年は *Dryopteris* 中の *Lastrea* 亞屬として認められてゐるものに相當する。外部内部の構造共にヲシダの一群とは格段の差のあるもので、むしろメシダ屬 *Athyrium* に近縁のものであら

う。秦氏は本属を次のやうに定義してゐる。

Thelyperis SCHMIDEL. ヒメシダ属 根莖は長く匍匐し相接してゐるか、又は相隔れた葉を有するか直立性で叢生した葉を有す、鱗片はあまり密生せず披針形褐色厚質全邊で邊緣には毛があり且つ一般に表面も有毛。葉は有柄、葉柄は淡色又は光澤のある栗色、一般に基部には疎に鱗片あり稀には上部にまで及び、全長に互り剛毛又は短柔毛あり。葉身は披針形又は長橢圓形又は倒披針形、2回羽狀中裂又は時に2回羽狀複生又は稀に3回羽狀中裂又は一層複雑に分裂し、決して三角狀五角形の輪廓を示さず、即ち最下の羽片が最大ではなく三角形でもなければ著く後側が発達もしてゐない。羽片は線狀披針形又は長橢圓狀披針形、無柄又は稀に有柄、最下の羽片は短くなつてゐるか又は然らず、或る種類では基脚裏面に通氣孔 (aerophore) がある。裂片は線形や、鎌狀に曲るか、又は長橢圓形全邊で櫛齒狀に並び一般に單一の游離細脈を有するか、又は時に缺刻縁又は鋸齒縁で二又又は稀にやゝ羽狀に分岐した細脈を有す、最下一對の細脈は缺刻の下底直上の邊緣に達するか又は時に最下前側又は最下一對の細脈が缺刻に續く特殊の厚膜の組織 (callous sinus) に達す、何れの場合も細脈は決して互に連結せず、葉質は一般に粗澁綠色、白色單細胞又は少數細胞よりなる針狀の毛が一般に密生するか又は少くとも中軸や羽片小羽片の中肋の表面に生ず。囊堆は一般に小形圓形又は類圓形又は長橢圓形、包膜は缺くこともある、各細脈に1個、大抵はその中央に時に殆どその先端に近く位置す、包膜は圓腎形大形褐色膜質又は小形淡色早落性多少有毛又は有腺毛又は時に無毛、孢子囊は屢頂端の近くに1乃至3個の剛毛を有す、孢子は左右相稱長橢圓體又は廣橢圓體、半透明、周皮は一般に缺除、外皮は缺除又は多疣。次の2亞屬に分類する。

1. *Phegopteris* (Pr.) Ching ミヤマワラビ亞屬 囊堆は常に包膜を缺く、類圓形卵形又は長橢圓形、孢子囊には屢剛毛あり。

2. *Euthelypteris* Ching ヒメシダ亞屬 囊堆は包膜を有するか又は缺除、圓形、孢子囊には時に剛毛あり

本属には大約 300種あるが、そのうち日本に關係のあるのは次の 25種である。

ミヤマワラビ亞屬

T. subaurita (TAGAWA) CHING ミミガタシダ 臺灣

T. brunnea (WALL.) CHING var. *hirtirachis* (C. CHR.) CHING = ヒタカワラビ 貴州 廣西、廣東、雲南、東京、臺灣

T. bukoensis (TAGAWA) CHING タチヒメワラビ 日本

T. decursive-pinnata (van HALL) CHING ゲジゲジシダ 支那、東京、カツシヤ、日本

Oct. 1936.

223

T. phegopteris (L.) SLOSSON ミヤマワラビ 北歐、小亞細亞、ヒマラヤ、支那西部及び西北部、臺灣、日本、朝鮮、滿洲、北米

ヒメシダ亞屬

T. simulans CHING オホミゾシダ 臺灣

T. omeiensis (BAK.) CHING ミゾシダモドキ 四川、貴州、日本、臺灣

T. erubescens (WALL.) CHING タイエフシダ 雲南、四川、貴州、東京、北印度、臺灣、馬來

T. falciloba (HK.) CHING 香港、廣東、雲南、貴州、海南、安南、東京、アツサム、ビルマ、日本 FAURIE が長崎で採集した Nos. 12072, 15729 を秦氏は本種と檢定してゐるが抄録者にはイブキシダとしか思へない。

T. subochthodes CHING イブキシダ 廣東、廣西、雲南、浙江、安徽、江西、香港、日本、臺灣、朝鮮

T. Beddomei (BAK.) CHING ホソバシヨリマ 南印度、セイロン、臺灣、日本、濟州島

T. nipponica (FR. et SAV.) CHING ニツクワウシダ 四川、貴州、雲南、湖北、江西、廣西、陝西、江蘇、河南、日本、朝鮮

T. japonica (BAK.) CHING ハリガネワラビ 湖南、江西、江蘇、雲南、日本、朝鮮
var. *glabra* CHING 濟州島

T. hirsutipes (CLARKE) CHING オホハシゴシダ 雲南、シツキム、琉球

T. castanea (TAGAWA) CHING タイワンハシゴシダ 臺灣

T. cystopteroides (EAT.) CHING ヒメハシゴシダ 日本、朝鮮、琉球、臺灣

T. angusifrons (MIQ.) CHING コハシゴシダ 日本、臺灣、福建

T. glanduligera (KZE.) CHING ハシゴシダ 支那、東京、シツキム、アツサム、朝鮮、臺灣、日本

T. gracilescens (BL.) CHING シマヤハラシダ 臺灣、馬來、比律賓

T. quelpaertensis (CHRIST) CHING オホバシヨリマ 朝鮮、日本、カムチャツカ、アリウシヤン列島

T. palustris (A. GRAY) SCHOTT ヒメシダ 歐洲、北米、亞佛利加、ニュージールランド、コーカサス、印度、東京、支那、日本、朝鮮、東部シベリヤ

T. laxa (FR. et SAV.) CHING ヤハラシダ 江西、安徽、浙江、貴州、福建、湖南、朝鮮、日本

T. uraiensis (ROSENST.) CHING タイワンハリガネワラビ 臺灣、廣東、雲南、アツ

サム

T. oligophlebia (BAK.) CHING タウヒメワラビヒ

var. *elegans* (KOIDZ.) CHING ヒメワラビ 安徽、江蘇、湖南、朝鮮、日本

T. uliginosa (KZE.) CHING アラゲヒメワラビ 支那南部及び西南部、日本、臺灣、
印度、東京、馬來、ポリネシア、オーストラリア (田川基二)

會 報

植物分類地理學會十月例会：十月十一日京大理學部植物學教室に開催す。

次の二氏の講演あり。

近江に於ける數種の植物の分布 橋本忠太郎

本邦産ホングウシダ屬の分類 田川基二

橋本氏は近江國に於ける南方系の植物及び北方系の植物數種につき、その分布の様を述べ特にその南限及び北限については生態的の事情をも考慮して説明せられた。

田川氏は本邦産のホングウシダ屬植物9種の分類を述べられた。本邦産のこの屬は精細な研究がない爲に種類も増加し、學名も變更せられてゐる。次に各種の學名と産地とを列挙しておかう。

<i>Lindsaya cultrata</i> Sw. ホングウシダ	本州、九州、臺灣
<i>Lindsaya japonica</i> DIELS サイゴクホングウシダ	本州、九州、朝鮮、琉球、臺灣
<i>Lindsaya concinna</i> J. SM.	琉球
var. <i>kusukusensis</i> (HAYATA) TAGAWA ホソバホングウシダ	臺灣
<i>Lindsaya Merrilli</i> COPEL.	臺灣
<i>Lindsaya yaeyamensis</i> TAGAWA トラノヲホングウシダ	臺灣、琉球
<i>Lindsaya Chienii</i> CHING エダウチホングウシダ	本州、四國、九州、琉球、臺灣
var. <i>deltoidea</i> (WU) TAGAWA	九州、琉球、臺灣
<i>Lindsaya orbiculata</i> METT	琉球、臺灣
<i>Lindsaya repanda</i> KUNZE	小笠原
<i>Lindsaya davallioides</i> Bl. クジャクホングウシダ	臺灣